

政治学概論 II 2024 w11-12 (2月6日) 授業の感想

氏名	Q1	Q2
岩田	大統領制や首相公選制という制度導入だけでは、「強い」首相は生まれない	強力なリーダーシップを求める人々は、日本が大統領制になれば政治家が官僚を統制できていると考えているため、日本の政治制度を大統領制に変えることを望んでいるということから、政治制度のみを変えただけでは全てが変わらないと考えるため。また、アメリカのような大統領制を日本でも同じようにすることは、既存の決まりを変えることを拒む日本人の気質から、難しいと考える。
内坂	選挙制度の基本的諸要素について	各国の選挙制度に共通する基本要素を分析するには、固有名詞を消し、分析カテゴリーに置き換えるという部分が印象に残ったからである。議席決定方式や選挙区定数、投票方式、選挙サイクルといった、これらのパターンの組み合わせで分析することで比較が可能になることを学んだ。また、選挙制度の基本要素の組み合わせが似ている国どうしでは、政治や社会に似通った部分があったり、立候補する政治家に何か傾向があったりするのにか気になった。
宇名手	執政制度について	大統領制、議院内閣制、半大統領制の3類型があるが、どれかが優れて良いというわけではなく、国によって適した執政制度があるということを実感した。大統領制は大統領の独断でものごとが決定されるということを踏まえると、とても民主的とは言えない政治になるのではないかと感じた。しかし、それぞれの執政制度について知り、比較することでそれぞれの執政制度の良さを学ぶことができるように感じた。
大石	安倍政権の特異性について	自分たちの世代の中では「安倍総理」・「安倍政権」が当たり前であったが、歴史的に俯瞰してみると特異なものであり、安倍政権から時間が経った現在でも影響があることから、長期政権の弊害を知れたから。また「森友問題」などで世間を騒がせていた中でも選挙が世界的にみて多い日本で失脚せず、政権を保持し続けたところにこの政権の面白さを感じたから。
大久保	少数派が議会運営や製作帰結に影響力を持てるのか	今の衆議院では、戦後あまり経験したことがない少数与党という立ち回りで、これまで圧倒的存在感を放っていた自公政権にとっては、少数派の意見を聞き入れないと自らがしようと思っていることもできなくなり、少数派にとってはこれまでやってきた会期切れに持ち込もうという技を使わなくても、いかにして少数派の要求をのみ込ますのかというまたとない機会であり、どちらかといえば開放性を重視するような傾向に移り変わろうとしているのかなと思った。今回の予算に関しても、一部の予算に関しては修正を入れるというふうになっているが、現在、野党議員がメスを入れようとしているところも修正される形になるか今後その点に注目していきたいと思った。

(continued)

氏名	Q1	Q2
片山	リーダーシップ	今までは、アメリカ大統領は、国内で強大な権力があり、リーダーシップもあるのかなと思っていた。実際、トランプ大統領は就任後、色々な大統領令に署名したとネットで見ただけで、リーダーシップがすごいなと思っていた。しかし、議会（立法）は行政から独立しているので、大統領はリーダーシップはそんなに無く、議会も強いと聞いて、今まで抱いていた大統領像が崩れた。そして、アメリカはいろいろおもしろい国だなと思った。
加藤	比例性と代表性	比例性と代表性が混在していることで、両方の選挙システムがバランスよく機能するようになっていることが重要だと感じたからである。比例性では、選挙結果が各政党や候補者に得られる票数に応じて議席数が配分され、政党が得た票の割合に応じて、その政党の議席が決まる。代表性では、選挙結果ができるだけ有権者の多様な意見や立場を反映している。これらのシステムの存在によって、選挙結果の一部が比例性を重視し、他の部分では地域代表や直接的な選挙で代表性を確保できていると考える。このことからどちらかが存在するだけではなく、両方のシステムがあることによってバランスが保たれていると考えられる。
喜多川	アジェンダ・ルール	アジェンダルールは、議会多数派が議案の提出から審議にかけての議会運営の主導権をどの程度掌握するかというルールのことであるが、国会法によって内閣が議会に主体的に参加できないルールがあることを知った。これは憲法41条の「唯一の立法機関」という文言を尊重しているためであり、政府と議会は別物であるという建前があるという話から三権分立の一部であると考えた。
黒田	選挙制度	最低投票率の有無や、小選挙区制は政党の執行部の影響強まるなど、各国によって選挙の制度が違ったり、様々な要素が絡まりあっていたりして面白いくちもあったから。また、参議院選挙では都市の議員は幅広い人にアプローチするが、地方の議員は自分の支持者だけにアプローチしなければ当選が難しいため、同党の議員でも異なる民意が集約する仕組みである今の制度を変えて欲しいと思った。
小松原（健）	政党に投票するか、個人に投票するか	個人に投票するか、政党に投票するかの質問において自分は個人の人の人柄や考えについてを見て投票することを第一にしていた。しかし、個人の考えやすと言っている政策は、実際に達成できるかといわれるとそうではないということがわかり、政党投票のほうが、結局自分の考えにそった政策が実現できるのではないかと思った。また、個人に投票することは、近年では話題を作った人や芸能人が票を集めるイメージがあり、個人に投票する際にはよく調べる必要性があるのではないかと思った。
小松原（暖）	執政制度とリーダーシップ	議院内閣制のほうが、首長が議会を統制でき、大統領制より首相のほうがリーダーシップを発揮しやすいという点が印象に残った。議会と協調しないと話し合いや政策が進まないため首相のほうがリーダーシップの観点ではいいという感じの話であったが、緊急の場合などは大統領制の方が大統領令による迅速な対応ができるため、一概にはどちらがいいとは言えないと感じた。また、執政制度だけではなくそれによって施行されている政策についても探究する必要があることが分かった。

(continued)

氏名	Q1	Q2
高橋	選挙サイクルの箇所が重要だと思った。	日本は他国と比較して選挙の実施回数が多いため、必然的に選挙サイクルが短いという特徴がある。この特徴に関連して、首相の任期が短いのはその首相がリーダーシップに欠けているからだとする首相のリーダー像を批判した主張がよく取り上げられる。しかし、このような首相個人に焦点化した理由だけでなく、首相の任期が短い背景には先述した日本における選挙制度の特徴が起因している可能性も十分考えられる。以上の内容を踏まえて、確かに首相の具体的な言動を批判した意見は世論の注目や共感を集めやすいため、テレビやネット等で取り上げる価値がある。しかし、このような見方に決して囚われず、本当にそうなのか・他に要因はないのかと様々な視点から首相の任期が短い理由を検討していく必要があると考える契機となったからである。
田辺	民主主義において選挙制度が重要であること	選挙制度には、議席決定方式、選挙区定数、投票方式、選挙サイクルといった要素がある。これらの要素は、有権者、立候補者の両方に影響を与えており、多数派に有利な仕組みと少数派に有利な仕組みがある。政治は変わらないという話をよく耳にするが、今回の講義を聞いて現状の選挙制度のもとでは当然のようにも思えた。政治を根本から変革するためには選挙制度を変更する必要があると思うが、選挙制度を変えようという議論があまり見られないのは、それ以外に優先して国会で議論すべきことが多いからなのか疑問に思ったから。
為石（康）	比例代表制と少数意見の尊重	現代の日本では、少数派の意見が政治に反映されにくいと感じた。特に、国会での与党・野党の法案の決定の際の話合いでは、いかに少数派の野党の意見が正しくても与党の大量の意見につぶされてしまう。そのため、比例代表制での選挙が重要であると感じた。それと共に、一票の重さというのがさらに重くなると感じた。授業の際に選挙に行ったことがあるかという先生の問いに対して挙手をしたのは2, 3名であった。社会科教員になるうえで、投票権を持つ生徒を世に送り出す身として、しっかりと授業をしなければならぬと深く感じた。
為石（智）	「弱い」首相	日本の首相は、人気が短いうえに政党内での派閥争いが頻繁にあり、党内での支持を集めるのに苦労し、政策の実現や政治的な決断をする際に足かせとなることが分かった。また、グローバリゼーションが首相をさらに弱くしてしまうのではないかと考える。外交における国際社会の圧力、日本国内の経済的な困難やメディアの厳しい批判などが、首相の決断をさらに難しくさせる要因となる。
丹後	選挙制度	18歳から選挙権が与えられるようになり、私も選挙権を持っているが、受験や地元を離れて一人暮らしを始めたことなどが重なり、選挙に今まで行ったことがなかったため、これから本格的に有権者として選挙に参加していく中で、知っておかなければならない知識だと感じたから。平成の選挙制度改革により政党投票誘因の強い制度へ変化したことによって、支持者が少数の政党でも国会に入っていくことができるようになったことで、より多くの人の意見が反映されるため、議論が深まり良いのではないかなと思ったり

(continued)

氏名	Q1	Q2
富谷	執政制度について	執政制度には執政長官がどのように選ばれるのか、どのように解任されるのかを基準として3つの類型に分けられる。その3つの類型には大統領制、議院内閣制、反大統領制があり、それぞれに特徴がある。今までどの類型がよいかなどを考えたことがなかった。この執政制度の内容で印象に残ったことは、大統領制はよく採用されている制度であるが、この大統領制も独裁への道を歩んでいきやすいという考えがあるという事である。一概にどの制度がよいといえることではないという事がわかった。
西田	大統領制について	リンスが大統領と議会との関係の行き詰まりについて指摘した部分が印象に残った。リンスは大統領制という制度自体に問題があるのではなく、大統領が議会で多数党によって支持されないような政党勢力の配置状況に問題があると述べている。多数党による支持がなければ、国民の意見を反映できないため民主主義として成り立たなくなる可能性があるため、配置状況に注目していると考ええる。
丹羽	国会における野党の「粘着性」論	国会中継を見ていると、野党が色々な面から法案の欠点を探して指摘しているところが印象に残っているためこの言葉を選んだ。自分が「粘着性」論について考えたことは、野党が内閣提出法案の成立を防止、遅らせることは自分たち国民にどれほどプラスに働いているか、あまり実感できないということである。国会中継を見ている、法案を否定していくうちに趣旨からそれてしまっている印象があり、有意義な時間になっているかは疑問である。
野田	リーダーシップを巡る比較研究	これまでの通説は首相の方が大統領より強い権限を持つと考えられていたが、首相のリーダーシップは議員多数派の質に依存し、大統領のリーダーシップは諸制度や政治制度の組み合わせに依拠することが分かった。日本は、人に、アメリカは制度に、それぞれリーダーシップの依拠部分が異なっていることから、どのような影響があるのか気になった。
原田	執政制度の類型	執政長官が選ばれる時と解任される時の2つの場面から3つの類型に分け、大統領制と議院内閣制は有名であるため聞いたことはあったが半大統領制というのは初めて聞き、半大統領制のシステムはかなり画期的で面白いと感じたから。日本の教科書では日本が議院内閣制であるため、議院内閣制とアメリカが採用している大統領制というのを主に紹介しがちであるが、この類型は今後の国民や政党のニーズに応じて変化していくものなのかなと感じた。
藤井	最低得票率の有無	投票率が〇%以下だった場合選挙をやり直すという制度をとっている国が多いという事実に驚いた。日本がこの制度を取り入れた場合、投票しないからといって罰則が科されるわけではないため、各段に投票率が上がるとは思えない。また、選挙が多い日本では度々選挙に出向くだけでも大変なのに、やり直しが行われた場合は再度選挙に行かなくてはならず、選挙を負担に感じる国民が増えてしまうのではないかと考えた。

(continued)

氏名	Q1	Q2
藤田	選挙区定数について	民意を反映してくれる政治家かそうでないかを推測する基準として選挙区定数を見ることが必要だと思ったから。選挙の際にその地域の定員に対して何人の候補者と争っているのかを見ることで、候補者たちがどれだけの人の理解を得る必要があるのかが分かる。すると、その候補者がどれくらいの民意に触れているのかが分かるため、より多くの民意を理解している候補者は誰かが見えてくる。これが分かれば、どの政治家に投票したら効果的なのかをある程度予想しながら政治に関わることができるため、政治をクリアーに理解するためには必要な考え方だと思い、ここが重要だと考えた。
本田	国会鑑賞	国会の様子を詳しく知ることができたから。私は、国会は寝ている議員や座っている議員が多いという現状をととても深刻にとらえていた。私たちの生活には、国会の決定が最重要であるのでとても興味深かった。議会の場を見ていると、役職をしっかりと果たす人とそうでない人との差があるのだと感じた。そのため、意識が低い人がどうやって今後の政治に取り組んでいけるかが重要であるのだと感じた。
本田	官僚の「自律性」	官僚の自律性は国の政治においても重要だと感じたから。特に官僚がどの程度政治に介入していくかは慎重に考えていく必要があるのだと感じた。官僚個々人の能力が政治に介入していく上で十分であるかなど見極めて行く必要があると感じた。そのため、官僚全体で判断するのではなく、個々人の教育水準を考慮した上で調整する必要があると考えた。官僚の自律性の課題について考えることが出来た。
本間	安倍政権が続いたことのメリットとデメリットについて	安倍政権が長く続いたことで、日本の政治体制を大統領制に変化させた方が良いという意見や官僚を統制できないのは議員内閣制のせいだといった誤った認識が言われることは少なくなったが、一方で、安倍政権後の首相とお倍政権が長く続いたことで、日本の政治体制を大統領制に変化させた方が良いという意見や官僚を統制できないのは議員内閣制のせいだといった誤った認識が言われることは少なくなったが、一方で安倍政権長かったことで首相と国対委員長、幹事長の統合性がなくなってしまったことを知り、長期政権の双方の側面を知ることができたから。
松本	アメリカの選挙制度について	アメリカは日本に比べて選挙の回数が少ないだけでなく、数少ない選挙が同じ日に行われるということを以前聞いたことがあり、今回の授業でそれを思い出した。日本のように定期的に選挙が行われていないことからアメリカでは選挙に対する関心が高いのではないかと感じた。日本は民主主義国家であるにも関わらず、他国に比べると政治に関心を持っている人は少なく、また国民の声を反映させようとする意識も低いのではないかと日々感じている。選挙制度が異なること以外にもきっと要因はあるため、何が原因でこのような国民性の差が表れるのか気になった。

(continued)

氏名	Q1	Q2
三島	選挙制度の違い	アメリカと日本の選挙制度を比較すると、それぞれの政治体制や歴史の違いが反映されている。アメリカの大統領選は州ごとの選挙人を通じた間接選挙で、連邦制の考え方が強い。一方、日本の首相は国会議員の投票で選ばれ、議院内閣制の特徴が表れている。また、アメリカは郵便投票や期日前投票が普及し、日本は投票所での投票が中心だ。さらに、アメリカは候補者個人の影響力が大きく、日本は政党中心の選挙が多い。それぞれの制度の特徴を理解し、より良い選挙のあり方を考えることが重要だと感じた。
渡邊	日本と世界の選挙制度	現在日本でおこなわれている選挙制度は、誰に当選してほしいかという記名式の方法で行われており、世界と比べても選挙の日数が少ない。世界では順位をつけたりチェックをつけたりするという方法がとられ、選挙の日数も日本と比べると長くなっている。制度を変更するとなると有権者と政治家、政党との関係に変化がでてきてしまうため、変更するのは難しいと思うけれど、もっと出馬している人の演説を聞いたり、理解したりするために世界のように期間を長くしてみたり、もっと簡易的な選挙方法にしていこうことが投票率をあげるためにも重要であると考えたから。